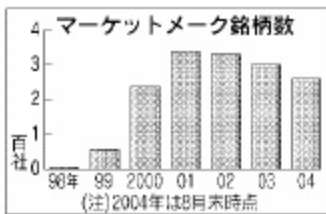


ジャスダックは取引所になるのを機に、マーケットメーク（値付け）制度を市場の特色として一層鮮明に打ち出す。

この方式は証券会社が



取引所に転換 どう変わる ジャスダック ②

売り買いの気配値を常時表示して投資家の注文に応じる仕組み。必ず売買が成立するため株式の流動性が高まるとされ、米ナスダック市場では全銘柄がこの制度を採用して

「マーケットメーク」中核に

いる。国内ではジャスダック市場だけが導入しており、東証マザーズなど

他市場と違いを鮮明にする上での「切り札」となる。

ただ、オークション（競

売）方式に慣れた日本の投資家は、証券会社を取引相手とする同方式に抵抗感が強い。採用企業数が減少しており、マーケットメークとなる証券会社は二〇〇二年のピーク時（二十八社）から十九社に減った。打倒策も打ち出した。新規上場時にマーケットメーク方式を採用した企業の上場手数料を軽減。上場後の管理料も優遇す

採用企業には優遇措置

る。マーケットメークをする証券会社に対しては、同取引の約定に対する取引負担金（場口銭）を無料にするほか、オークション方式の場口銭もマーケットメークの約定実績に応じて軽減する。いずれも九月に制度を変更した。

それでも減少に歯止めがかからなければ、戦略の大幅な見直しも迫られそう。投資家とマーケットメークを担う証券会社への浸透が喫緊の課題といえる。